

太宰府の文化財

449

大宰府条坊跡第344次調査

本年4月～5月にかけて、五条1丁目地内で「大宰府条坊跡第344次調査」を行いました。

古代の遺跡「条坊跡」とは、正方位を向く土地を区画する道路によって基盤の目状に施工された古代の都市計画によってつくられたまちのあとをさします。



遺跡の全景(西から) 井戸

東側溝
西側溝



壊して捨てられた炉の破片

今回の調査では、古代の遺構は確認されず、中世の溝2条、井戸、柵を並べた柵列が見つかりました。溝2

条はほぼ南北方向に向いています。また柵列は、溝の東側に平行して見つかりました。井戸は調査区の西側にあり、直径4メートルほど周りを掘り下げ、中央に石組みの枠を作っ

ています。

溝は、ほぼ南北方向を向いていることや2条が平行して並ぶことから、道路や何らかの敷地の境界である可能性があり、中世太宰府の町並みと関係することが考えられます。

遺物としては、井戸から瀬戸美濃産の天目、溝から粉青沙器や象嵌青磁という15～16世紀の朝鮮半島の陶磁器、髪を結うことや刀を装飾する刀装具として使用された笄と呼ばれるかんざし、金属を溶かす炉の一部などが出土しています。これらの遺物は15～16世紀代に使用されたもので、この時期に営まれた遺跡であると分かりました。

特に注目したのは、鑄造のために使用された金属を溶かす炉の遺物です。16世紀に使用された溝の中から見つかりました。出土した状況から、壊して捨てられたことが分かりました。また銅が霰状になって固まったものなどが一緒に見つかったことから、銅を加工したと考えられます。

五条区には、かつて「六座」と呼ばれる商工業者集団がありました。「大

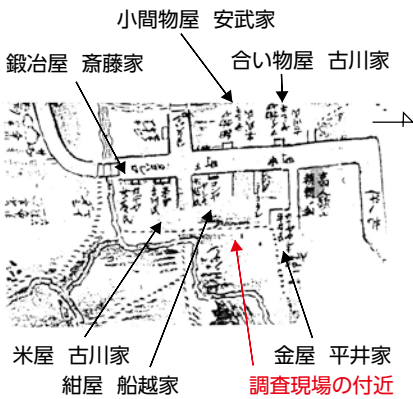
野城太宰府旧蹟全図北」には彼らの名が五条の道沿いに記載されており、「鍛冶屋 斎藤家」「米屋 古川家」「紺屋 船越家」「小間物屋 安武家」「合い物屋 古川家」「金屋 平井家」

の6つの家を頭として、16世紀には商工業者が集まっていました。六座の中の金屋 平井家が金属を溶かして加工する鑄造を行っており、今回見つかった炉の遺物と何らかの関係があると考えられます。

太宰府市内では15～16世紀の遺跡はあまり見つかりません。今回発掘調査を行った場所は、当時の太宰府の様子を知るうえで重要な遺跡になると考えられます。

文化財課

福盛 雅久



『大野城太宰府旧蹟全図北』(個人蔵) 五条の部分

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198
☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号
✉ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします！

